

# 雑記抄

## 捨てる我楽多

二〇〇八年（平成二〇）四月といえは、卯月（陰暦四月の異称）、卯の花、新年度の始めの月でもあるから、我楽多ならぬ瓦落多を捨てて、さらり・ちよつぱり・こざ

つぱりな身の回りにしたいのだが、「がらくた一掃」にはなかなかどうして勇気凛々とはいかないから始末に終えないのである。

捨てる踏ん切り：よし、今日こそ思い切り・決心して捨てようとしても、変てこな気分からられて踏ん切りがつかずにまた拾い集める体たらく。

待てよ、そうそう、この我楽多（実は鋳物・陶器・樹脂加工などの灰皿）は、あの日・あの時・あの時から、これはあのお店から、そしてミニ灰皿はわざわざ発注して：と、正に「我が楽しきこと多き思い出の灰皿」であり、日記がわりの記念品なのである。

禁煙してからやがて十年、全く出番の無い灰皿をダンボールに詰

めこんで、納戸に積み上げる時の複雑な心の揺れは如何ともしがたないか。だが待てよ：。

捨てる七癖：①タバコをス

パスバと喫煙していた

ころ、「これはユ

ニークな灰皿に

出来る」と、ゴ

ミステーショ

ンの廃品を拾

い集めたもので

ある。白昼堂々

と：。②誰も拾わ

ない一円玉はもちろ

んのこと、ポタン・ガ

ラス玉・化粧ビンの蓋などを

拾ってアイディア小物入れの飾り

にしたものである。泥だらけの雑

品を：。③旅行での土産記念とし

て、「目が飛び出るキー・ホルダ

ー」を買集めていたころ、パス

停で拾った「タヌキ」は目に入れ

ても痛くない程で、ネオン瞬く雪



フクジュソウ

空は寒かったけれど：。④兎に角、行った所で艶のある小石を拾って来ては「組み合わせ石細工」に熱中。筆置きや小物入れを作っては自画自賛して自己満足：。⑤枯れ枝や流木でオリジナル・オブジェを作ってはニッコリとは：⑥またも、またしても、資源ゴミの日に「あれ、これ読みたいな」とばかり、転勤で出した「どなたかの古本」を一時拝借（？）でチ

ヤツカリと：。⑦そし

てそして、サイク

リングの休憩時

に、川原で拾っ

た角の無いガ

ラスのくず

：。ああ、何と

無分別なコレク

ターではないか。

だが待てよ：。

勿体無い：日本の、

日本語の「もったいない」を

環境保護の合言葉として世界中に

広げるといわれたノーベル平和賞

の受賞者ワンガリ・マータイさん

（ケニア）は、四つのR（物資の

再使用のR、リユース、消費削減のR、

デュース、資源再利用のR、サイク

ル、修理のR、リペア）を実践するこ

とを提唱された（既報二〇〇五年八月号「リをつくカタカナ語」）し、辰巳渚（フリーのマーケティングプランナー）さんは（「捨てる！」技術）という著書で、かつて、モノは貴重で「もったいない」が美德だったが、今は暮らしの技術としての「捨てるための技術」を説かれている。また、禿美津（学生カウンセラー）さんは道新（夕刊）ともしび「がらくた一掃」で、日常生活で所有している物の20%しか使っていない家の中を見回して、大半はなくても何の支障もなさそうだとわれている。

更に、古いネクタイはヨレていても思い入れがあり、手にとれば「いたましく」なつて、「なげれない」とは道新の山本卓論説委員である。勿体無い、段ボールが少し痛んでいるために商品にならないで捨てられる食品などと。特に大事なことは、心の中のがらくた一掃や人間を使い捨てる経済構造には反対という識者の教えを「なげ」てはいけない。町の風はどうだろ

うか。

（前）中央分館長

尾池隆男